

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語	文学国語（文学国語）	2	家政科	3
教材・副教材	文学国語（桐原書店） 頻出漢字マスター3000（尚文出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ○深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 <p>※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業、2・3年継続履修です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。 ○文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引きつける独創的な文章になるよう工夫する力を身につける。 ○文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉える能力を育成する。 ○人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につける。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとし、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもっている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	授業態度の観察 定期考査 小テスト 課題の点検	授業態度の観察 定期考査 課題の点検 発表態度の観察	授業態度の観察 課題の点検 発表態度の観察	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	随筆1 小説1	<ul style="list-style-type: none"> ○随筆につづられている筆者の感じ方や思いを読み取り, ものの見方を広げる。 ○登場人物の心情を表現に即して把握し, 主人公の内面と苦悩について考える。 ○評論に述べられた内容を的確に理解し, 「言葉」の意義や特質について考える。 ○小説を読み, そこに込められた寓意や描かれた人々の姿から, 生きることへの考えを深める。 ○詩歌や俳句と, 俳句に関する評論を読み, 詩歌の表現の特色を理解して味わう。 ○小説における場面展開や, 人物の性格・心理の描写を読み取る。 ○具体例や引用と筆者の主張との関係に注意して評論を読み, 文学の価値や意義について考える ○物語の展開や状況の変化に注意して小説を読み, 現代の社会や自らの生活を捉え直す。
	第2回	詩歌 随筆2	
	第3回	戯曲 小説2	
後期	第4回	評論	

* 年間指導計画は予定であり,変更がある場合には,連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
国語	国語表現（国語表現）		2	家政科	3
教材・副教材	国語表現 改訂版（大修館書店） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）				
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実社会に必要な国語の知識・技能を身につけるようにする。 ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 <p>※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること</p>				
講座内容	<p>※この講座は、通年、一斉授業、2・3年継続履修です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増やし、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する力を培う。 ○相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫する力を身につける。 ○社会的な話題や自己の将来などを題材に、自分の思いや考えについて、的確な表現や語句を用いて書く能力を育成する。 ○自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義と効用について理解を深める。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、現代の諸課題を知る。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」「読むこと」の各領域において、社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、効果的に使っている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	授業態度の観察 定期考査 ワークシート 課題の点検	授業態度の観察 定期考査 ワークシート 課題の点検	授業態度の観察 ワークシート 課題の点検		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	小論文・レポート	<ul style="list-style-type: none"> ○わかりやすく読みやすい、整った文章を書く力を身につける。 絵や写真をもとに、相手に正確に伝わる文章を書く力を見につける。 ○情報を収集・分析し、自分の考えを深め、それを効果的に伝えられるよう、論理の構成、文体などについて学ぶ。 ○自分の過去や現在を見つめ、将来に向けての展望をもつ。 自分の特長を他者に的確に伝える力を身につける。 ○メディアによる特性・特徴の違いについて理解する相手や目的に応じてメディアを選択し、効果的に表現する。 ○目的に応じて情報を整理し、内容や表現のしかたを工夫して話したり聞いたりする。聞くことを通じて表現のしかたの工夫について理解し、自らの表現に役立てる。 ○場に応じた適切な表現や、目的に応じた効果的な表現を意識して、話したり聞いたりする。相手の考えを尊重しながら自らの考えを主張し、論拠の妥当性を判断しながら話し合う。
	第2回	自己PRと面接	
	第3回	メディアを駆使する	
後 期	第4回	会話・議論・発表	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
国語	古典探究（古典探究）		2	家政科	3
教材・副教材	精選 古典探究（数研出版） 読解を大切にする 体系古典文法（数研出版） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）				
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ※言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味・働き・使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味づけること				
講座内容	※この授業は、通期、選択授業、2・3年継続履修です。 ○古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○古典の作品や文章の種類やその特徴、構成や展開の仕方、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深める。 ○作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：我が国特有の言語文化を通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、伝統を重んじる素養を身につける。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通じて、自己の学習課題を分析し、解決する。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	授業態度の観察 定期考査 ワークシート 課題の点検	授業態度の観察 定期考査 ワークシート 課題の点検	授業態度の観察 ワークシート 課題の点検		
年間指導計画					

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	説話2（古文） 史話（漢文）	<ul style="list-style-type: none"> ○説話を読み展開や内容のおもしろさを味わう。 ○話の展開や内容のおもしろさを味わう。 ○作品中の和歌が持つ意味に着目し、歌物語の特色を理解する。
	第2回	日記2(古文) 漢詩（漢文）	<ul style="list-style-type: none"> ○漢詩の鑑賞を通して、言語感覚や想像力を豊かにする。 ○随筆に書かれている情景や出来事を的確に捉える。 ○『史記』を読み、歴史上の人物の行動や心情について考える。 ○朗読などを通して、軍記物語の内容や表現の特色への理解を深める。
	第3回	作り物語（古文） 史記（漢文）	<ul style="list-style-type: none"> ○儒家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。 ○発想や表現の特色を理解し、小説のおもしろさを味わう。 ○日記を読み、作者の境遇や出来事を的確に捉える。 ○作り物語の内容を的確に読み取り、登場人物の行動や心情を捉える。 ○詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わう。 ○作品の特色に注意しながら、歴史物語の内容を的確に読み取る。 ○道家の文章を読み、人間を巡るさまざまな思想を読み取る。
後期	第4回	歴史物語（古文） 小説（漢文）	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の構成や展開を理解し、論旨を的確に捉える。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
国語	現代語入門（現代語入門）	1	家政科	3
教材・副教材	パスポート国語必携 国語常識の演習と確認（桐原書店） デジタル版 ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店）			
科目の目標	国語を的確に理解し適切に表現するために必要な言語の知識・技能を身につけさせるとともに、言語に対する関心を高め、現代の国語の向上を図る態度を育てる。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業、2・3年継続履修です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○語句の意味、用法を理解し、語彙を豊かにすること。 ○文章や文の組み立て、語句の働き、表記の仕方などを身につけること。 ○漢字や漢語の特質を理解し、常用漢字の読み書きに習熟すること。 ○場面や状況・目的に応じた言葉遣いができるようにすること。 ○論理的に物事を考える力とその表現力を身につけること。 ○自己を知ることとその魅力が伝わるような表現力を身につけること。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のテキストを通して、その内容や背景に関する知識や教養を身につけ、現代の諸課題を知る。 ○自分の考えを表現する力：シンクシートやグループディスカッションを通して、自己の意見を書いたり話したりして表現する。 ○自律しやり抜く力：毎時の予習や小テストへ向けての学習を通して、自己の学習課題を分析し、解決する。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	国語を的確に理解し適切に表現するために必要な言語の知識・技能を身につけている	国語を的確に理解し適切に表現している。	言語に対する関心を高め、現代の国語の向上を図っている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	授業態度の観察 定期考査 ワークシート 課題の点検	授業態度の観察 定期考査 ワークシート 課題の点検	授業態度の観察 ワークシート 課題の点検	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	仮名遣いの決まり 送り仮名の付け方	○漢字や漢語の特質を理解し、常用漢字の読み書きに習熟し、的確な語句や表現を用いて書く能力を身につける。
	第2回	同音異義語 異字同訓	○語句の意味、用法を理解することを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○語句の知識を活用して、文章や文の組み立て、語句の働きなどを身につける。
	第3回	間違えやすい漢字 四字熟語	○現代の国語の成り立ちや特質、言語の役割などについて理解を深める。
後期	第4回	慣用表現 ことわざ 故事成語	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
地理歴史	地理総合（地理総合）	2	家政科	3
教材・副教材	地理総合（東京書籍） 新詳高等地図（帝国書院）			
科目の目標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>○地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災・地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>○地理に関わる事象の意味や意義・特色や相互の関連を、位置や分布・場所・人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p> <p>※社会的事象の地理的な見方考え方 地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>○地理に関わる諸事象に関し、世界の生活文化の多様性や、防災・地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身につける。</p> <p>○地理に関わる事象の意味や意義・特色や相互の関係を、位置や分布・場所・人間と自然環境との相互依存関係・空間的相互依存作用などに着目し、多面的に考察したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○中学校での学習事項を確認・整理しつつ、高等学校での学習内容へスムーズに移行できるよう配慮する。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや、他の地域との関わりについて学び、意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけでなく、それを生きていく中でどう生かすか、どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で、複数の史資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し、推論を組み立てるプロセスを繰り返し行い、問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して、物事における共通点や規則性、因果関係などに気づき、その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力、論理的・批判的に思考する力、自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	地理に関わる諸事象について、世界の生活文化の多様性や、防災・地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関係を、位置や分布・場所・人間と自然環境との相互依存関係・空間的相互依存作用、地域などに着目し、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、地理的な課題の解決に向けて構想することができる。 考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	知識技能を獲得や、思考力・判断力・表現力等を身につけることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通じて、自国および他国やその文化を尊重することの大切さについての自覚が深まっている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査○発問評価	○定期考査○グループディスカッション	○振り返りシート○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ○私たちが暮らす世界 ○地図や地理情報システムの役割 ○資料から読み取る現代社会 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主題学習や探究的学習をする機会を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びを得ることができるようにする。 ○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・主題図・図表など）を提示し、生徒が地域的な特色の豊かさを意識するとともに、史資料を読み解く視点を身に付ける。 ○「地理的な課題」を考察するために不可欠である、「位置や分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」の諸観点を、具体的な主題を絡めながら扱うことにより、現代的な諸課題に対する関心を深める。 ○中学校までの社会科地理分野の知識の範囲に配慮した授業展開、そして2年次以降の「地理探究」につながるような授業展開を意識し、生徒が地理的な視野を深化させられる教育活動を行う。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○生活文化の多様性と国際理解 ○生活文化の自然環境①地形 ○生活文化の自然環境②気候 	
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ○生活文化と産業① ○生活文化と産業② ○地球環境問題 ○人口問題 ○食料問題 	
後期	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ○居住・都市問題 ○民族問題 ○持続可能な社会の実現を目指して ○日本の自然環境の特色 ○様々な自然災害と防災 ○地域調査 	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
公民	現代研究（現代研究）	2	家政科	3
教材・副教材	高等学校公共（第一学習社） フォーラム公共（とうほう）			
科目の目標	具体的な事例を用いた法学習を通して、国家から認められた権利そしてそれが衝突する場合にどのような視点で判断を下すのか、裁判員制度も意識しながら学ぶ。また、地方自治や安全保障などの具体的な事例を通して、公正・正義といった視点を身につける。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。</p> <p>○民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現する力を身に付ける。</p> <p>○政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現する力を身に付ける。</p> <p>■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：社会的事象等を、倫理・政治・法・経済などに関わる多様な視点（概念・理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築を目指して他者と意見交換を重ねながら、自分の考えを説明できる力を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：「幸福・正義・公正」といった視点を必要に応じて組み合わせながら、人間と社会のあり方についての見方・考え方を働かせ、現代社会の諸課題の解決に向けて議論する力を身につける。</p> <p>○自分の考えを表現する力：現代社会の諸問題を題材として、よりよい社会の構築を目指して他者と意見交換を重ねながら、自分の考えを整然と説明する。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 高い志で挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	○諸課題を考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解することができる。また、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	○現代社会の諸課題の解決に向けて、公共的な空間における基本的原理を活用することができる。また、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。	○他者の考えを踏まえたり取り入れたりして、考えたことを再構築しながら議論できる。その活動を通して、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	定期考査 発問評価	定期考査 グループディスカッション 簡易ディベート	振り返りシート ワークシート 授業参加の態度	

年間指導計画			
期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	<p>○導入 1 公共的な空間と人間のかかわり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会に生きる私たち 2 多様性と共通性 3 キャリア形成と自己実現 <p>○主題 2 契約と消費者の権利・責任</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 契約と法 2 消費者の権利と責任 	<p>○子どもから大人へと変化する過程で通る「青年期」の学習を通じて、青年期の特徴を理解する。そして欲求不満の状態にあるときでも自分を客観視し、望ましい適応行動を身につける。</p> <p>○他者と協働することの重要性を理解し、自立した主体としてのキャリアデザインができるようになる。</p> <p>○契約には責任がともなうことを理解し、近年の契約をめぐるトラブルとその原因を考えながら、「かしこい消費者」としての意識を高める。</p>
	第2回	<p>○主題 3 司法参加の意義</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 司法にかかわる、模擬裁判 <p>○主題 8 雇用と労働問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 働くということ 2 労働者の権利 3 今日の労働問題 	<p>○国民感覚を司法に採り入れるため始まった裁判員制度をはじめとした一連の司法制度改革がもたらした意義とその課題について理解する。また、模擬裁判を通じて、理性的に議論を展開することの重要性を学ぶ。</p> <p>○グローバル化・情報化・少子高齢化がいつそう進む現代社会において、将来の働き方をどのように考えていけば良いか、キャリアビジョンとともに考える。また労働者の置かれた環境や労働問題の歴史を学ぶ中でよりよい働き方について探究する。</p>
	第3回	<p>○主題 4 政治参加と公正な世論の形成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 選挙の意義と課題 2 地方自治と住民の福祉 <p>○主題 10 市場経済の機能と限界</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 市場経済のしくみ 2 経済成長と国民福祉 	<p>○主権者である国民と国会・内閣との関係、代表者の役割などを理解したうえで、各選挙制度の長所・短所を「公正・正義」といった視点で考察する。</p> <p>○首長と地方議会の関係性を理解し、様々な制約を考慮したうえで、地域住民にとってより良い政策について「幸福・公正」といった視点で深く考察する。</p> <p>○需要・供給の基本的な関係を理解したうえで、現実世界に起こる様々な出来事が需要・供給、さらには資源配分にどのような影響を与えるのか考察する。</p> <p>○経済の成長・発展を評価する諸指標について学び、現在の我が国及び諸外国の経済状況について、人口規模も考慮しながら比較する。</p>
	第4回	<p>○主題 11 金融の働き</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 金融の意義や役割 <p>○主題 12 財政の役割と社会保障</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 政府の経済的役割と租税の意義 2 人口減少社会・少子高齢社会 3 社会保障と国民福祉 	<p>○金融市場や中央銀行が経済にどのような役割を果たしているかについて理解し、生産者・消費者それぞれの立場から投資の意義を考える。</p> <p>○リスクとリターンについての理解を深め、投資をはじめとした資産形成の重要性を理解する。</p> <p>○少子高齢化が進む中、将来にわたって持続可能な財政活動とするために政府はどのような役割を果たしていくべきか、その課題を含め考える。</p> <p>○私たちをとりまく人口減少社会、少子高齢社会について、人間関係の絶対数と質の変化という視点で捉え、それに付随する諸問題について考察する。</p> <p>○社会の特徴と「自助・共助・公助」のバランスを照らし合わせながら、現在の日本社会が抱える財政上の問題を理解するとともに、他国の事例を参考にして望ましい社会保障の在り方について考える。</p>

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
公民	人口・食糧問題（人口・食糧問題）	1	家政科	3
教材・副教材	「公共」で使用した教科書，「地理総合」で使用した教科書			
科目の目標	世界的な課題である途上国の人口爆発や先進国における少子高齢化などの人口問題について，統計資料や地図を用いて検証し，理解を深める。また，食糧の生産と供給の仕組みや食糧需要の変化について，統計資料や地図を用いて理解を深め，将来予想される人口問題と食糧問題を相互に関連させながら考察する。			
講座内容	<p>※この授業は，通期，選択授業です。</p> <p>①人口や食糧に関する諸課題の概要や地域的な差異を理解する。</p> <p>②人口や食糧に関する諸課題について自身の考えや意見を述べる。</p> <p>講義による一方通行にならないように，生徒による調べ学習とその発表の機会を取り入れる。</p> <p>■ <u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：過去と現代のつながりや，他の地域との関わりについて学び，意見交換を重ねる中で単に知識をつけるだけではなく，それを生きていく中でどう生かすか，どのように社会・世界と関わるべきかを考える力を身につける。</p> <p>○情報を活用する力：提示された問いに対する自分なりの推論を作る活動の中で，複数の史・資料から読み取った情報を組み合わせて分析・整理し，推論を組み立てるプロセスを繰り返す問いに対する答えの出し方を身につける。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：複数の事例の考察を通して，物事における共通点や規則性，因果関係などに気づき，その事実を論理性や多層・多面的な視点を持って整然と説明できる力を身につける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	世界的な人口問題・食糧問題についての基本的な事柄を理解し，知識を身につけているか。	人口・食糧問題について世界的視野に立って多角的，多面的に考察しているか。国際社会の変化に的確に対応し，公正に判断しているか。	人口・食糧問題について関心をもってしているか。また，課題意識をもち，意欲的に追求しているか。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○発問評価	○定期考査 ○グループディスカッション	○提出物 ○授業参加の態度	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	(1) 人口の構成 (2) 発展途上国の人口問題 (3) 先進地域の人口問題	<p>○主題学習や探究的学習の活動を多く設けることで、主体的・対話的で深い学びの機会を得るとともに、思考・判断・表現の力を身につける。</p> <p>○明確な学習目標を持って各種史資料（文章・主題図・図表など）を提示し、地域的な特色の豊かさを意識するとともに、資料を読み解く視点を身に付ける。</p> <p>○人口問題や食糧問題を考察するために不可欠である「位置や分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」の諸観点を、具体的な主題を絡めながら学習し、現代的な諸課題に対する関心を深める。</p> <p>○グループごとに1項目の発表を行い、他者の意見を聞くことにより自己の視野を広げる。</p>
	第2回	(4) 日本の人口問題 (5) 世界の民族問題 (6) グループ発表	
	第3回	(7) 世界の主要農産物 (8) 日本の農業	
後 期	第4回	(9) 食糧問題と農産物貿易問題 (10) グループ発表	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
数学	数学Ⅱ（数学Ⅱ）	2	家政科	3
教材・副教材	新 高校の数学Ⅱ（数研出版） ポイントノート数学Ⅱ（数研出版）			
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って、考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○指数関数・対数関数、及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関数関係に着目し事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学のよさを認識し数学を活用しようしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題 ○行動観察 ○ワークシート 	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第4章 指数関数・対数関数 第1節 指数関数 1. 指数関数の拡張(1) 2. 累乗根 3. 指数関数の拡張(2) 4. 指数関数のグラフ	○指数を実数まで拡張させる意義を理解し、指数関数を事象の考察に活用できるようにする。
	第2回	第2節 対数関数 1. 対数 2. 対数の性質 3. 対数関数のグラフ 4. 常用対数	○対数の定義とその性質を理解し、対数関数や常用対数を事象の考察に活用できるようにする。
	第3回	第5章 微分法と積分法 第1節 微分法 1. 微分係数 2. 導関数 3. 接線 4. 関数の増減 5. 関数の極大値, 極小値 6. 関数の最大値, 最小値	○微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。
後 期	第4回	第2節 積分法 1. 不定積分 2. 定積分 3. 定積分と面積	○不定積分や定積分について理解し、それらの有用性を認識するとともに、定積分を用いてグラフで囲まれた図形の面積が求められるようにする。

* 年間指導計画は予定であり,変更がある場合には,連絡します。

教科名	科目名 (校内科目名)	単位数	学科	年次
数学	数学 A (数学 A)	1	家政科	3
教材・副教材	新高校の数学 A (数研出版) ポイントノート数学 A (数研出版)			
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。			
講座内容	※この授業は、通期、選択授業です。 ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。 ■ 未来を拓く 8 つの力の育成場面 ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く 8 つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	○図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	○図形の構成要素間関係などに着目し図形の性質を見だし、論理的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、数理的に考察する力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようしたりしている。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 4. 円周角の定理 5. 円に内接する四角形 6. 円の接線	○平面図形についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	第2回	7. 方べきの定理 8. 2つの円 9. 作図	
	第3回	第2節 空間図形 1. 空間の直線, 平面 2. 正多面体 3. 立体の切断	○空間図形についての理解を深めるとともに、それらを観察したり考察したりすることで、空間認識力の育成を図る。
後 期	第4回	第3章 数学と人間の活動 1. 約数と倍数 2. ユークリッドの互除法 3. 2進法 4. 点の位置の表し方 5. 数学とゲーム・パズル	○整数の性質, 点の位置の表し方, 数学とゲーム・パズルとの関係について, 数学的活動を通して理解を深め, それらを事象の考察に活用し, 数学により興味をもってもらえるようにする。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
数学	数学 A（数学 A 研究）	1	家政科	3
教材・副教材	新高校の数学 I（数研出版） 新高校の数学 A（数研出版）			
科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○図形の構成要素間との関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 <p>※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○私立大学の進学を目指す生徒を対象とした数学 I A の問題解説及び演習。</p> <p>■未来を拓く 8 つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く 8 つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事象を的確に表現し、数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題 ○行動観察 ○ワークシート 	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	基礎レベル問題解説及び演習	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の内容を復習し、それを基にして、様々な事象の考察に活用できるようにするとともに、大学入試における基本的な考え方や重要事項の定着をはかる。 ○入試頻出問題のうち基本レベルの問題に対して、多面的にアプローチする力を育成する。
	第2回	基礎レベル問題解説及び演習	
	第3回	標準レベル問題解説及び演習	<ul style="list-style-type: none"> ○入試頻出問題のうち標準レベルの問題に対して、多面的にアプローチする力を育成する。
後 期	第4回	標準レベル問題解説及び演習	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
数学	数学B（数学B）		2	家政科	3
教材・副教材	新高校の数学B（数研出版） ポイントノート数学B（数研出版）				
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。				
講座内容	※この授業は、通期、選択授業です。 ○予習→授業→復習のサイクルを確立させることで、授業の理解度を高める。 ○主体的な学びになるようノートやプリントを自分の言葉で整理し、まとめる。 ○思考や判断の結果を根拠に基づいて表現し、対話することで知識を深化させる。 ○家庭学習では、学習したことを振り返り、繰り返し演習することで、知識を定着させる。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○数列や統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○離散的な変化の規則性に着目し事象を数学的に表現し考察する力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート		

年間指導計画			
期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和	○数列やその一般項の表し方について理解する。基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。
	第2回	第2節 いろいろな数列 6. 和の記号 Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和 第3節 漸化式と数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法	○和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。 ○数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。数学的帰納法の仕組みを理解し様々な命題の証明に活用できるようにする。
	第3回	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の和と積 4. 二項分布 5. 正規分布	○確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象に活用できるようにする。
後 期	第4回	第2節 統計的な推測 1. 母集団と標本 2. 標本平均の分布 3. 推定 4. 仮説検定	○母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推測、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育成する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次	
数学	数学 B（数学 B 研究）	1	家政科	3	
教材・副教材	新高校の数学Ⅱ（数研出版） 新高校の数学 B（数研出版）				
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ○数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関りについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ○離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ※数学的な見方・考え方 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること。				
講座内容	※この授業は、通期、選択授業です。 ○私立大学の進学を目指す生徒を対象とした数学ⅡBの問題解説及び演習。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○論理的・批判的に思考する力：既習の内容を基にして問題を解決し、思考の過程を振り返ってその本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する。 ○自分の考えを表現する力：事象を数学的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する。 ○自律しやり抜く力：問題解決などにおいて、粘り強く、柔軟に考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度を身に付ける。				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	○基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	○事象を的確に表現し、数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。	○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとする。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○定期考査 ○確認テスト ○行動観察 ○ワークシート	○課題 ○行動観察 ○ワークシート		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	基礎レベル問題解説及び演習	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の内容を復習し、それを基にして、様々な事象の考察に活用できるようにするとともに、大学入試における基本的な考え方や重要事項の定着をはかる。 ○入試頻出問題のうち基本レベルの問題に対して、多面的にアプローチする力を育成する。
	第2回	基礎レベル問題解説及び演習	
	第3回	標準レベル問題解説及び演習	<ul style="list-style-type: none"> ○入試頻出問題のうち標準レベルの問題に対して、多面的にアプローチする力を育成する。
後 期	第4回	標準レベル問題演解説及び演習	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	化学基礎（化学基礎）		2	家政科	3
教材・副教材	新編 化学基礎（数研出版） 新編 化学基礎 準拠 整理ノート（数研出版）				
科目の目標	<p>物質とその変化に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○日常生活や社会との関連を図りながら，物質とその変化について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>○観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>○物質とその変化に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p> <p>※ 理科の見方・考え方</p> <p>自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。</p>				
講座内容	<p>※ この授業は通期，一斉授業です。</p> <p>I 化学と人間生活…化学と人間生活との関わりについての観察，実験などを通して，次の事項を身に付ける。</p> <p>1 化学と人間生活について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。</p> <p>2 身近な物質や元素について，観察，実験などを通して探究し，科学的に考察し，表現する。</p> <p>II 物質の構成…物質の構成について，次の事項を身に付ける。</p> <p>1 物質の構成粒子について，次のことを理解する。また，物質と化学結合についての観察，実験などを通して，次のことを理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。</p> <p>2 物質の構成について，観察，実験などを通して探究し，物質の構成における規則性や関係性を見いだして表現する。</p> <p>III 物質の変化とその利用…物質の変化とその利用についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付ける。</p> <p>1 物質と化学反応式，化学反応，化学が拓く世界について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。</p> <p>2 物質の変化とその利用について，観察，実験などを通して探究し，物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現する。</p> <p>■ 未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普通の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	化学と物質についての実験などを通して，化学の特徴について理解しているとともに，科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学の特徴について，問題を見だし見通しをもって実験などを行い，科学的に考察し表現しているなど，科学的に探究している。	化学の特徴に関する事物・現象について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○観察・実験	○定期考査 ○観察・実験	○小テスト ○課題		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	I 化学と人間生活 1 化学の特徴 2 物質の分離・精製 3 単体と化合物 4 熱運動と物質の三態	○化学と人間生活について、左記の内容を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。
	第2回	II 物質の構成 1 原子の構造 2 電子配置と周期表 3 イオンとイオン結合 4 分子と共有結合 5 金属と金属結合	○物質の構成粒子について、左記の内容を理解する。また、物質と化学結合についての観察、実験などを通して左記の内容を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。
	第3回	III 物質の変化とその利用 1 物質質量 2 化学反応式	○物質質量と化学反応式について、左記の内容を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。
後期	第4回	III 物質の変化とその利用 3 酸・塩基と中和 4 酸化と還元	○化学反応について、左記の内容を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	生物基礎（生物基礎）		2	家政科	3
教材・副教材	i 版 生物基礎（啓林館） Navi&トレーニング 新訂版 生物基礎（啓林館）				
科目の目標	<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p> <p>○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>※理科における見方・考え方 自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。</p>				
講座内容	<p>※ この授業は通期、一斉授業です。</p> <p>○生物の特徴について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技術を身につけ、観察、実験を通して探究し、多様な生物な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現すること。</p> <p>○ヒトの体の調節について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技術を身につけ、観察、実験を通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現すること。</p> <p>○生物の多様性と生態系について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技術を身につけ、観察、実験を通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現すること。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高くで挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<p>○生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。</p> <p>○生物に関する概念や法則を理解し、問題を解くことができる。</p> <p>○実験器具の使い方や方法を理解し、創意工夫を凝らし実験を行うことができる。</p>	<p>○生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、式や法則を見出すことができる。</p> <p>○実験結果をデータや式、グラフにまとめ、自分の考えを述べるができる。また、データやグラフを解析し、法則性や関係を見出すことができる。</p>	○身のまわりの疑問を見つけ、それがどのように引きおこされるかを問い、探究していく態度が身につけている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法	<p>○定期考査</p> <p>○実験書</p>	<p>○定期考査</p> <p>○実験書</p>	<p>○授業にのぞむ姿勢</p> <p>○授業ノート</p> <p>○課題</p>		

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回 第2回	第1部 生物の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○生物の特徴について、その特徴、遺伝子とその働きを理解すると共に、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ○細胞内でのさまざまな化学反応によって生命活動が成り立っていることを理解し、そのために非常に多くの酵素が必要であることなどを理解する。 ○DNAが基本骨格を理解し、塩基配列が遺伝情報になっていることを理解する。 ○すべての細胞は核をもっており、体細胞分裂によってDNAが正確に複製されることを理解する。
		第2部 遺伝子とそのはたらき	
後 期	第3回	第3部 ヒトの体内環境の維持	<ul style="list-style-type: none"> ○体内環境＝体液であることを理解し、この環境を一定に保つために各器官が自律神経やホルモンによって調節されていることを理解する。 ○体内環境の調節として「血糖調節」を取り上げ、理解する。 ○私たちのからだを守る免疫のしくみを理解する。免疫と、病気や治療法との関係について理解する。
		第4部 免疫	
後 期	第4回	第5部 植生と遷移	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな植生とその特徴を理解する。植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因を理解する。 ○世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。日本に分布するバイオームについて理解する。 ○生態系がどのように構成されているのかを理解する。生態系の中で、多様な生物がどのように関係して、存在しているのかを理解する。 ○生態系のバランスが保たれているとはどういうことかを理解する。人間生活が生態系に与える影響と、生態系の保全の重要性を理解する。
		第6部 生態系とその保全	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
理科	物理基礎研究（物理基礎研究）		2	家政科	3
教材・副教材	高等学校 物理基礎（第一学習社）				
科目の目標	<p>1「物理基礎」で学習した物理現象を更に広範囲に扱うことで、物理が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、物理的な事物・事象への関心を高める。</p> <p>2 目的意識を持って観察・実験などを行い、物理的に探究する能力と態度を身につける。</p> <p>3 物理の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。</p> <p>4 実験・観測、グループ討議での意見交換を行った上で、レポート作成や発表能力（プレゼンテーション能力）を身につける。</p>				
講座内容	<p>※ この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>1 電気と磁気</p> <p>○電気や磁気のような物理現象について、実験・観察などを通して理解を深めるとともに、磁石に対する様々な物質の反応を調べ、身近に磁性が用いられる事例について見つけ、仕組みを理解する。</p> <p>○電磁誘導の法則について理解するとともに、風力発電機の作成などを通して、学習した法則が日常生活においてどのように活用されているのか、具体例を用いて探究する。</p> <p>2 光の科学</p> <p>○光の速さの測定や偏光に関する実験・観察などを通して、身近な存在である光について自然法則の理解を深める。</p> <p>○光電効果に関する実験などを通して、光を粒子として捉える能力を身につける。</p> <p>3 探究活動</p> <p>1・2の内容で興味関心を持った現象について自主的にテーマを選び、その内容について個人研究を行い、発表をすることで、日常生活に関連した現象・事物を科学的に探究する。</p> <p>■ <u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	<p>○実験などを行い、様々な運動の法則性を理解することができる。</p> <p>○運動を表す式や法則を用いて、問題を解くことができる。</p> <p>○実験器具の使い方や方法を理解し、創意工夫を凝らし実験を行うことができる。</p>	<p>○運動している物体のようすを図や矢印で表し、それらから式や法則を見出すことができる。</p> <p>○実験結果をデータや式、グラフにまとめ、自分の考えを述べることができる。また、データやグラフを解析し、法則性や関係を見出すことができる。</p>	○身のまわりの疑問を見つけ、それがどのように引き起こされるかを問い、探究していく態度を育むことができる。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<p>○定期考査</p> <p>○実験</p>	<p>○定期考査</p> <p>○実験書</p>	<p>○授業にのぞむ姿勢</p> <p>○授業ノート</p> <p>○課題</p>		

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	1. 電気と磁気 (ア) 磁気力	○磁化, 強磁性体, 常磁性体, 反磁性体, 双極子, 磁区について理解させる。 ○磁化についての実験を行わせる。(相互作用型演示実験による)
	第2回	1. 電気と磁気 (イ) 電磁誘導 2. 光の科学 (ア) 光の速さ	1. (イ) 電磁誘導 ○ファラデーの電磁誘導の法則を理解させる。 ○風力発電機作成コンテストを行わせる。 (限られた材料を用いて, より発電効率の大きい発電機の作成を競わせる) 2. (ア) 光の速さ ○光の反射, 屈折, 回折, 干渉について理解させる。 ○光の速さの測定の歴史について考えをまとめさせる。 ○光の速さの測定実験を行わせる。
	第3回	2. 光の科学 (イ) 光の偏光 (ウ) 光電効果	(イ) 光の偏光 ○縦波と横波, 電磁波について理解させる。 ○可視光線や電波の偏光について理解させる。 ○偏光に関わる実験を行い, 現象についてまとめさせる。 (ウ) 光電効果 ○光の波動性と粒子性について理解させる。 ○紫外線とX線の光電効果の実験を行わせる。
後 期	第4回	3. 探究活動 (ア) 個人研究	○電気と磁気, 光の科学の中からテーマを選び, 個人研究を行わせる。 ○個人研究の結果をレポートにまとめ, 口頭発表を行い, 質問や相互評価も行わせる。

* 年間指導計画は予定であり, 変更がある場合には, 連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
理科	化学基礎（化学基礎研究）	2	家政科	3
教材・副教材	新編 化学基礎（数研出版） 新編 化学基礎 準拠 整理ノート（数研出版）			
科目の目標	<p>物質とその変化に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○日常生活や社会との関連を図りながら，物質とその変化について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>○観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>○物質とその変化に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p> <p>※ 理科の見方・考え方</p> <p>自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。</p>			
講座内容	<p>※ この授業は通期，一斉授業です。</p> <p>I 物質の変化とその利用</p> <p>物質の変化とその利用についての観察，実験などを通して，次の事項を身に付ける。</p> <p>1 物質と化学反応式，化学反応，化学が拓く世界について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身に付ける。</p> <p>2 物質の変化とその利用について，観察，実験などを通して探究し，物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現する。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○情報を活用する力：実験などにおいて，自分で仮説をたて，実験結果を検証し，答えを導き出す場面。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。</p> <p>○自分の考えを表現する力：実験での班活動，普通の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	化学と物質についての実験などを通して，化学の特徴について理解するとともに，科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	化学の特徴について，問題を見だし見通しをもって実験などを行い，科学的に考察し表現しているなど，科学的に探究している。	化学の特徴に関する事物・現象について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○観察・実験	○定期考査 ○観察・実験	○小テスト ○課題	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	Ⅲ 物質の変化 1 物質量と化学反応式	○物質量 (mol) の概念を理解し, 基本的な計算ができる。化学反応の量的関係について理解する。
	第2回		
期	第3回	Ⅲ 物質の変化 2 酸と塩基	○酸・塩基の性質・反応について理解する。身の回りにある酸・塩基やその利用法について学ぶ。
後 期	第4回	Ⅲ 物質の変化 3 酸化還元反応 4 化学が拓く世界	○酸化還元反応について理解する。身の回りにある酸化還元反応を利用した製品について学ぶ。

* 年間指導計画は予定であり, 変更がある場合には, 連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
理科	生物基礎研究（生物基礎研究）	2	家政科	3
教材・副教材	i 版 生物基礎（啓林館） Navi&トレーニング 新訂版 生物基礎（啓林館）			
科目の目標	1. 「生物基礎」で触れていない生命現象を更に深め、広範囲・総合的に扱うことで生物が日常生活や社会の中でどのように関連しているかを知り、生物学的な事物・事象への関心を高める。 2. 生物の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。 3. 目的意識を持って観察・実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につける。 4. 実験・観察、グループ討議での意見交換を行った上で、レポート作成や発表能力（プレゼンテーション能力）を身につける。			
講座内容	※ この授業は通期、一斉授業です。 1. 生命現象にかかわる物質 生命現象の中心的な役割を担う「タンパク質」や「エネルギーの流れ」を総合的に扱い、身近なものとしての理解を深める。 （いろいろなタンパク質の働き、微生物の発酵、光合成色素の分離など） 2. 生物の環境応答 生物と光・温度など様々な環境要因に対する反応を動物と植物について扱う。 （植物の生育と光、光屈性と花芽形成、動物の光走性と視覚器など） 3. 探究活動 学習した内容の中から、興味関心を持ったことについて自主的にテーマを選びその内容についてグループ研究を行う。 <u>内容の取り扱い</u> 1. できるだけ観察・実験を取り入れて、生物及び生命現象に対する興味・関心及び理解を深める。 2. 学習内容と日常生活との関連を重視し、最新の研究分野についても触れる。 3. 探究活動は、数人のグループ単位で行い、グループ内討議、レポート作成、プレゼンテーション能力を身につける。 ■未来を拓く8つの力の育成場面 ○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。 ○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普通の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高くで挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	○生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 ○生物に関する概念や法則を理解し、問題を解くことができる。 ○実験器具の使い方や方法を理解し、創意工夫を凝らし実験を行うことができる。	○生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、式や法則を見出すことができる。 ○実験結果をデータや式、グラフにまとめ、自分の考えを述べることができる。また、データやグラフを解析し、法則性や関係を見出すことができる。	○身のまわりの疑問を見つけ、それがどのように引き起こされるかを問い、探究していく態度が身についている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○実験書	○定期考査 ○実験書	○授業にのぞむ姿勢 ○授業ノート ○課題	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第1回	第4章 免疫	○私たちのからだを守る免疫のしくみを理解する。免疫と、病気や治療法との関係について理解する。
	第2回		
	第3回	第5章 植生と遷移	○いろいろな植生とその特徴を理解する。植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因を理解する。 ○世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。日本に分布するバイオームについて理解する。
後 期	第4回	第6章 生態系とその保全	○生態系がどのように構成されているのかを理解する。生態系の中で、多様な生物がどのように関係して、存在しているのかを理解する。 ○生態系のバランスが保たれているとはどういうことかを理解する。人間生活が生態系に与える影響と、生態系の保全の重要性を理解する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
理科	環境科学（環境科学）	2	家政科	3
教材・副教材	i 版 生物基礎（啓林館）			
科目の目標	我々を取り巻く環境についての観察、調査等を行い、環境に関する基礎的な知識を習得させ、環境および環境学習についての興味・関心を高めるとともに、科学的思考力と問題解決能力を育成する。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>1 環境学習 (ア) 環境学習とは何か 基本的な環境のとらえ方、環境学習とは何か、どのように環境学習を進めるか、環境を学ぶことによって何が期待されているか、などを理解する。</p> <p>2 環境と生物 (ア) 環境と人間生活 地域環境の観察や統計資料の調査・地球環境に関する衛星情報や統計資料による具体的な事例を通して、森林などの生態系、その物質循環や環境と人間の相互関係を理解し、生態系は多様な生物の共生と物資循環によって維持させていることを認識し、環境と環境学習に関心を持ち、自ら考え判断し、主体的に行動できる力を育成する。</p> <p>(イ) 環境の調査 地域の植生、土壌、生き物、大気、水質などの観察や調査の学習を通して、環境要因や環境調査に対する基礎的な知識と技術を習得し、地域の環境要因や環境調査の方法を体験的に理解する。</p> <p>3 環境と地域 (ア) 環境の保全と創造 森林、農村、河川、とその流域、都市といったそれぞれ異なる地域において、自然環境が人間の営みを通して変容してきた実態を理解させるとともに、第3章で調査した環境の要素がお互いに関連し合っ地域環境を形成していることを理解する。そして、身近な野生生物の分布や生態を通して問題点を具体的に捉え改善策を探ることによって、地域環境を主体的に保全し改善しようとする意欲と態度、能力を身につける。</p> <p>4 発表 <u>内容の取り扱い</u> 環境問題の原因を探り、そのために必要な観察や実験実習を習得、学習するとともに問題点を改善する能力を養う。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○情報を活用する力：実験などにおいて、自分で仮説をたて、実験結果を検証し、答えを導き出す場面。 ○論理的・批判的に思考する力：各単元で法則性等を導くようにする。 ○自分の考えを表現する力：実験での班活動、普段の授業の中でディスカッションの場を設けるなど。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高くで挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	自然環境と人間との関わりについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然環境について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	自然環境に関する事物・現象について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○レポート ○調査発表	○レポート ○調査発表	○レポート ○調査発表	

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期		I オリエンテーション II 観察学習	○環境学習とは何か。環境学習の内容・目的を理解を深める。 ○環境と人間生活の係わりを、身近な地域環境の観察を通じて学習する。環境と人間生活が切り離すことのできない関係であることを理解する。
後 期		III 野外調査 IV 調査発表	○校内のいろいろな場所で、環境調査の方法論を、実践を通じて理解を深める。 ○環境の保全と創造について、各自に与えられたテーマを研究し、その成果を発表することで理解を深める。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次	
保健体育	体育（体育）	2	家政科	3	
教材・副教材	現代高等保健体育（大修館書店）				
科目の目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯にわたって運動、スポーツを継続していくために必要な技能・競技のルール・試合の進め方などを身につけることができる。 ○課題解決のために思考し、判断するとともに自己や仲間の考えたことを表現することができる。 ○仲間と競争や協働の経験を通して、互いに認め合い、高め合うことができる。 <p>※体育の見方・考え方は、運動やスポーツをその価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の特性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「体づくり運動」では、自己の体力や生活に応じて、体の調子を整え体力の向上を図る。 ○「体育理論」では、体育・スポーツに関する知識を理解できるようにし、運動の合理的な実践及び健康の増進と体力の向上に活用することができる資質や能力を身につける。 ○選択制授業では、生徒一人ひとりに運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るよう、また自分の能力・適性・興味・関心に応じた運動の行い方や楽しみ方や学び方を計画的に工夫する力をより一層育てる。 <p>履修上の注意 本校規定の体操服（柔道着）・体育館シューズ・グラウンドシューズをきちんと着用し、指導教員の指示をよく聞いて、安全に留意して授業を受けること。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報を活用する力：chromebookやiPadなどのICTツール等を活用し、スキルアップの方法や自己の運動課題を解決することができる。 ○対話し協働する力：グループ活動や自他の運動課題を解決する中で、よりよい活動、動きにするために、互いに意見や知恵を出し合い、対話生まれ、協働した活動を行うことができる。 ○志高く挑戦する力：新体力テストにおいて自己最高記録を更新するために高い志をもち挑戦することができる。また、各スポーツで目標を決め、それに向かって新たな技術を獲得するために、様々な場面でチャレンジする力を育てることができる。 ○自律しやり抜く力：各スポーツで記録更新を目指したり、目標を決め、取り組んでいく中で、自律しやり抜く力を育てることができる。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力	志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	種目の特性やルール、試合の進め方等を理解し、実践することができる。また、各種目に必要な技能や体力を身につけ、努力を怠らず向上させることができる。	課題を発見し、話し合い活動へ積極的に関わったり、課題解決に向けた提案を行ったりすることができる。また、自己の考えを仲間に伝えることができる。	準備や片付け、グループや集団の中での協力・競争・協働など主体的かつ積極的に学びに向かうことができる。また、健康安全に留意しながら活動を行おうとする。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○スキルテスト ○授業観察 ○まとめプリント ○相互評価 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業観察 ○まとめプリント（記述） ○相互評価 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業観察 ○選択ノート ○まとめプリント ○相互評価 など 		

指導と評価

教科名		科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
外国語		英語コミュニケーションⅡ（英語コミュニケーションⅡ）		3	家政科	3
教材名・副教材名		All Aboard! English Communication Ⅱ(東京書籍) All Aboard! English Communication Ⅱ Workbook(東京書籍)				
科目の目標		<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。</p> <p>日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば</p> <ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 ○必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 ○多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。 <p>※外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方</p> <p>外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面・状況に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。</p>				
講座内容		<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業ではペアワーク・グループワークなどに積極的に取り組むとともに、スピーチなどでは他の意見を受容し、自らも積極的に考えを表現します。 ○授業と同様に家庭学習も大切にします。学習したことを振り返り、課題などに取り組みます。 ○さまざまな題材を用いて英語による言語活動を行い、英語の学習を通じて、自らの力で考え、判断し、表現できる力を培います。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。 ○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。 ○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。 ○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定等でより上位の級の合格を目指す。 				
未来を拓く8つの力との関連		社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況		
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味や働きをおおむね理解している。 また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場面・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語でおおむね的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりしようとしている。		
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況		
評価方法		○定期考査 ○パフォーマンステスト ○小テスト	○定期考査 ○パフォーマンステスト	○小テスト ○提出物 ○授業態度の観察		

年間指導計画

期	考査 範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki ○to 不定詞を含む表現 Lesson 6 Seeds for Future Generations ○動詞の目的語になるif節	○英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。 ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけさせると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高めさらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。 ○授業中は英語力にかかわらず、ペア（グループ）ワークで英語を用いて意欲的かつ積極的に表現しようとする力が求められる。 ○分からない単語やフレーズについては、Chromebookで調べ、次回必ず表現できるように徹底的に復習する。
	第2回	Lesson 7 Over the Wall ○関係副詞 Lesson 8 Inspiration from Nature ○知覚動詞	
	第3回	Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate ○使役動詞 Lesson 10 Fighting Angel ○分詞構文	
後期	第4回	長文問題演習	
	第5回		

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
情報	情報Ⅱ（情報Ⅱ）		2	家政科	3
教材・副教材	高校情報Ⅱ（実教出版）				
科目の目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。 ○様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する力を養う。 ○情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養う。 <p>※情報に関する科学的な見方・考え方 情報に関する科学的な見方・考え方について、「事象を、情報とその結び付きとして捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用（プログラミング、モデル化とシミュレーションを行ったり情報デザインを適用したりすること等）により、新たな情報に再構成すること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>この科目は、情報Ⅰの次のステップであり、情報Ⅰは課題を解決する手がかりを学ぶのに対して、情報Ⅱでは具体的な解決方法尾を学ぶ。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：情報に関する用語など基礎知識を学び、日々変化する情報化社会を生き抜くために必要になる情報リテラシーを育成する。 ○情報を活用する力：様々なデータを活用し分析する活動を通して、問題の明確化、情報の収集・整理・分析する技術を育成する。 ○論理的・批判的に思考する力：ある事柄について、1つの情報源だけでなく複数の情報と照らし合わせることで物事を多面的に判断できる力を育成する。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法律・規則やマナー、個人が果たす役割や責任等について情報の科学的に理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けている。	様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力や、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けている。	情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に起用しようとする態度を身に付けている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業での活動 ○提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業での活動 ○提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習 ○授業での活動 ○提出物 		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第2回	第1章 情報社会	<p>○情報技術の発展による人や社会への影響に着目し、情報社会の進展と情報技術の関係を歴史的に捉え、将来の情報技術を展望する活動を通して将来の情報技術と情報社会の在り方等について討議し発表し合う活動を通して情報技術の発展による人の知的活動への影響について理解する力を養う。</p> <p>○多様かつ大量のデータを活用することの有用性に着目し、データサイエンスの手法によりデータを分析し、その結果を読み取り解釈する活動を通して目的に応じた適切なデータの収集や整理、整形について理解する力を養う。</p>
		第2章 データサイエンス	
前期	第3回	第3章 プログラミング言語	<p>○実際に稼働している情報システムを調査する活動や情報システムを設計し制作する活動を通して、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報システムの仕組み、情報セキュリティを確保する方法、情報システムを設計しプログラミングする方法を理解し、必要な技能を身に付けるようにするとともに、情報システムの制作によって課題を解決したり新たな価値を創造したりする力を養う。</p>
		第4章 情報システム	
後期	第4回	第4章 情報システム	<p>○情報システムの設計とプログラミングに関わろうとする態度、自分なりの新しい考え方や捉え方によって解決策を構想しようとする態度、自らの問題解決の過程を振り返り、改善・修正しようとする態度、情報セキュリティなどに配慮しようとする態度を養う。</p>

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭（専）	課題研究（課題研究）	3	家政科	3
教材・副教材	家庭科問題集 被服編（公共財団法人 全国高等学校家庭科教育振興会） 家庭科問題集 食物編（公共財団法人 全国高等学校家庭科教育振興会）			
科目の目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上や、社会を支え生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 ○生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ○課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 <p>※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>家庭科技術検定被服製作（洋服）・（和服）、家庭科技術検定食物調理、日本語漢字能力検定より、2つ選択し受検する。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○志高く挑戦する力：身につけた専門的な知識と技術をいかして、より上位の級の合格を目指すことで、挑戦する力を身につける。 ○専門的で高度な技術力：被服製作や食物調理について、テーマに応じた作品を製作するための技術を身に付け、検定の合格を目指す。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○実習内容 ○課題の点検 ○作品	○授業態度の観察 ○課題の点検	○授業態度の観察 ○課題の点検	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭（専）	消費生活（消費生活）	2	家政科	3
教材・副教材	消費生活（実教出版）			
科目の目標	<p>家庭の生活に関わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、消費者の視点に基づく豊かな消費生活の実現を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○経済社会の動向，消費者の権利と責任，消費者と行政や企業との関わり及び連携の在り方などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>○消費生活に関する課題を発見し，消費者の視点をもった職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>○よりよい消費生活の実現を目指して自ら学び，消費者の支援や持続可能な社会の形成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> <p>※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住，保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の伝承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。</p>			
講座内容	<p>この授業は，通期，選択授業です。</p> <p>○経済社会の動向，消費者の権利と責任，消費者と行政や企業を取り上げ，消費生活全般を体系的・系統的に学習し，消費者支援のための基本的な知識や技術の習得を目指す。</p> <p>○消費者被害の救済や未然防止などに加え，よりよい消費生活の在り方について課題を発見し，消費者の視点をもった職業人としての支援について学習する。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○自分の考えを表現する力：よりよい消費生活や消費生活に関する課題の解決，未然防止の方法について他者と意見を重ね，自分の考えを表現する。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	経済社会の動向，消費者の権利と責任，消費者と行政や企業との関わり及び連携の在り方などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身につけている。	消費生活に関する課題を発見し，消費者の視点をもった職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	よりよい消費生活の実現を目指して自ら学び，消費者の支援や持続可能な社会の形成に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○ワークシート	○定期考査 ○ワークシート	○授業態度の観察 ○ワークシート ○提出物	

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	1回	消費生活の役割 生涯の計画と役割 社会の変化と消費生活の変化	○消費者の権利と責任などを学ぶことで消費生活の課題を見出し、消費者の支援や持続可能な社会の形成に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。
	2回	消費者被害と消費者の権利・責任 消費生活の安全と自由 消費者の自立支援	
	3回	消費の価値観の変化と環境問題 人間の消費活動が地球環境に与える影響 持続可能な社会への枠組み 消費サービスの選択と利用と環境問題 エシカル消費	
後 期	4回	生活の中の契約 契約と責任 複雑・多様化する販売方法と悪質商法 消費者取引と関連法 電子商取引と消費生活 多様化する支払い方法と資金調達	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭(専)	保育実践（保育実践）	4	家政科	3
教材・副教材	保育実技 児童文化財の魅力とその活用・展開（萌文書林） 全国高等学校家庭科保育技術検定 過去問題集（公共財団法人 全国高等学校家庭科教育振興会）			
科目の目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子供の表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ○保育や子育て支援に関する課題を発見し、子供を取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 <p>※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 保育に係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、保育現場で生かすことと関連付けること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保育基礎や保育実践で身につけた保育に関する様々な知識や技術等を生かし、幼稚園実習などの保育現場で活用できるようにする。 ○子供の表現活動や子育て支援について具体的に理解できるよう幼稚園などとの連携を図り、保育の活動計画と実習について自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む。 ○実習を中心に、全国高等学校家庭科保育技術検定等を活用し保育に関する技術を習得するとともに豊かな人間性を養い、広い視野をもちながら学習する。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○志高く挑戦する力：身につけた専門的な知識と技術をいかして、より上位の級の合格を目指し努力することで、挑戦する力を身につける。 ○専門的で高度な技術力：子供の表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	子供の表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術が身に付いている。	保育や子育て支援に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○授業態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○授業態度の観察 ○課題の点検	○授業態度の観察 ○課題の点検	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭(専)	ファッション造形（ファッション造形）	4	家政科	3
教材・副教材	ファッション造形（実教出版）			
科目の目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通してファッション製品の創造的な製作を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○デザインや着用目的に応じたより高度なファッション造形について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>○ファッション造形に関する課題を発見し、ファッション製品製作を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>○衣生活の充実向上と創造性豊かな作品の製作を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> <p>※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方</p> <p>衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。</p>			
講座内容	<p>この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○各々の創造性や個性を生かした作品製作を行い、ファッション造形に関する応用的な知識と技術を身に付け、活用する。</p> <p>○ファッションショーの計画・実施を通して、製作した作品を着装して表現する方法（ウォーキング・ポージング）を理解する。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○自律しやり抜く力：衣生活の充実向上と創造性豊かな作品の製作を目指して自ら学び、実践においては計画に従って主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に着ける。</p> <p>○専門的で高度な技術力：デザインや着用目的に応じたより高度なファッション造形について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	被服製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を理解して、製作することができる。	被服製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を活かして、製作に向けて考察している。	被服製作において計画に従って主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	○授業態度・進度の観察 ○課題の点検 ○定期考査	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭（専）	服飾手芸（服飾手芸）	2	家政科	3
教材・副教材				
科目の目標	<p>家庭の生活に関わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的な手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○手芸の種類と特徴及び変遷，各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>○手芸の美的価値及び製作工程に関する課題を発見し，手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>○手芸品の製作を目指して自ら学び，創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。</p> <p>※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住，保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の伝承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は，通期，選択授業です。</p> <p>○手芸の種類と特徴，変遷について学習し，各種手芸の技法を身につける。</p> <p>○刺しゅうや編物，染色など，さまざまな手法を用いて作品を製作する。</p> <p>■ <u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○専門的で高度な技術力：様々な手芸の種類と特徴を学び，関連した技法を身に付ける。社会人講師を活用することで，より専門的な技術を身に付ける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	手芸の種類と特徴及び変遷，各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身につけている。	手芸の美的価値及び製作工程に関する課題を発見し，手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	手芸品の製作を目指して自ら学び，創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協動的に取り組む態度を身につけている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○作品	○定期考査 ○作品	○授業態度の観察 ○作品	

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
家庭（専）	調理（調理）		4	家政科	3
教材・副教材	調理2（実教出版）				
科目の目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的に調理し、健康の保持増進に寄与する食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○調理の基礎、献立作成及び様式別調理などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>○食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>○調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> <p>※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 衣食住、保育等のヒューマンサービスに係る生活産業に関する事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生活の質の向上や社会の発展と関連付けること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○調理の基礎について学習し、調理実習を通して関連する技術を身につける。</p> <p>○日本料理、西洋料理、中国料理などの特徴や献立作成の基本を学習し、調理実習を通して目的や条件に応じた、献立を考える力や調理の技術を身につける。</p> <p>○調理における課題を見つけ、考察し工夫する力を調理実習で身につける。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○専門的で高度な技術力：各料理や調理法の特徴を学習し、多様な献立の調理をすることで関連する知識と技術を身に付ける。</p>				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	調理の基礎、献立作成及び様式別調理などについて体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身につけている。	食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○実習内容	○定期考査 ○ワークシート	○提出物 ○ワークシート ○授業態度の観察		

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	1回	「調理」について 調理実習① 社会人講師（西洋料理）	○複数回調理実習を行うことで、調理に関する技術を身につける。 ○実習から調理における課題を発見、解決に向けて考察・工夫し、調理に対して主体的かつ協働的に取り組む姿勢を養う。
	2回	調理実習② 調理実習③ 調理実習④	
	3回	調理実習⑤ 目的に応じた献立作り・調理	
後期	4回	調理実習⑥ 調理実習⑦ 社会人講師（和菓子） 社会人講師（日本料理） 目的に応じた献立作り・調理	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭(専)	栄養（栄養）	2	家政科	3
教材・副教材	栄養（実教出版）			
科目の目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○栄養素の機能と代謝，各ライフステージにおける栄養，労働・スポーツと栄養などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>○食生活の現状から栄養に関する課題を発見し，栄養面で健康の保持増進を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>○栄養状態の改善の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び，健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> <p>※家庭の生活に関わる産業の見方・考え方 食生活に係る生活産業に関する事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の伝承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，栄養状態の改善の面から食生活の充実向上と関連付けること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は，通期，一斉授業です。</p> <p>○ライフステージと栄養について乳幼児期，青少年期，成年期，高齢期の各期の身体的・生理的特徴を理解する。</p> <p>○栄養上の配慮事項及び食事構成の概要を実験・実習を通して学習する。</p> <p>■<u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○専門的で高度な技術力：栄養素の機能と代謝，各ライフステージにおける栄養，労働・スポーツと栄養などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付ける。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	栄養素の機能と代謝，各ライフステージにおける栄養，労働・スポーツと栄養などについて体系的・系統的に理解し，関連する技術が身に付いている。	食生活の現状から栄養に関する課題を発見し，栄養面で健康の保持増進を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力が身に付いている。	栄養状態の改善の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び，健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○課題の点検 ○実習態度の観察	○定期考査 ○課題の点検 ○授業態度の観察 ○発表態度の観察	○課題の点検 ○授業態度の観察 ○発表態度の観察	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回	栄養素の復習 人体の構成成分と栄養素 エネルギー代謝①	<ul style="list-style-type: none"> ○人体と栄養との関わりについて理解する。 ○食物摂取と栄養への関心を高め、健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組むことができる。 ○炭水化物、脂質、たんぱく質、無機質、ビタミンの各栄養素の種類及び栄養素の機能と代謝の概要を理解する。 ○日本人の食事摂取基準及び栄養状態の評価の意義と方法について理解し、各種栄養素を過不足なく摂取することの重要性を認識する。 ○各ライフステージにおける身体的・生理的特徴を理解し、各ライフステージに応じた栄養の特徴と食事構成の概要について理解する。 ○調理実習を通じてライフステージと栄養の関わりへの関心を高め、健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	第2回	エネルギー代謝② 栄養の調べ学習 食事摂取基準と献立作成 栄養価計算	
	第3回	乳幼児期の発達と栄養 乳児期の栄養 乳児期の食事（離乳食の調理実習） 幼児期の栄養 幼児期の食事（間食の調理実習） 学童期の栄養	
後期	第4回	思春期・青年期の栄養 成人期の栄養 松花堂弁当（献立作成・調理実習） 高齢期の栄養 病態と栄養	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
家庭（専）	生活教養（生活教養）		2	家政科	3
教材・副教材	最新版 楽しく学べるマナーの基本（教育図書株式会社）				
科目の目標	家庭や社会における基本的なマナーを習得させ、実社会の中で活用できる能力を身につけさせる。また生活の質の向上を目指して自らの生活を見つめ創造する能力と実践的な態度を育てる。				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>人として必要な常識・マナーについて、実習を多く取り入れ体験的に習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食事のマナー ○美しい立ち振る舞いと身だしなみ ○冠婚葬祭の常識とマナー ○お祝いと贈り物のマナー ○人付き合いのマナー ○手紙の常識とマナー ○茶道の心得 <p>■ <u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを表現する力：日常の基本的なマナーを題材とし、実社会の中で活用できる能力を身に付けさせることを目指して他者と意見交換を重ね、自分の考えを表現する。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	B を大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	家庭や社会における基本的なマナーを体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	家庭や社会に関する基礎的・基本的な理論とマナーを理解し、社会生活を合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	家庭や社会における基本的なマナーを活かし主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。	
	C 努力を要する	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	B を大きく下回っている状況	
評価方法	○定期考査 ○授業態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○授業態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○授業態度の観察 ○課題の点検		

年間指導計画

期	考查 範囲	学習内容	学習のねらい
前 期	第2回	食事のマナー 美しい立ち振る舞いと身だしなみ 挨拶 姿勢 歩き方 優雅な所作 お辞儀の仕方 部屋の中での立ち振る舞い 冠婚葬祭の常識とマナー 結婚のマナー 葬儀のマナー お祝いと贈り物のマナー 慶弔の袋の表書き 祝儀袋の書き方 お祝い品の贈り方 お中元・お歳暮の贈り方 人生の祝い事 大字, のし袋, 表書き	○家庭や社会における基本的なマナーを習得させ、実社会の中で活用できる能力を身につけさせ、生活の質の向上を目指して自らの生活を見つめ創造する能力と実践的な態度を育てることを目指す。
後 期	第4回	人付き合いのマナー 手紙の常識とマナー 正しい敬語の使い方 電話の基本マナー 人を紹介するときの基本マナー 訪問するときのマナー おもてなしのマナー 頭語と結語 時候の挨拶 手紙の書き方 茶道の心得 日本の伝統文化 茶道の歴史・マナー 茶をたてる	

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
家庭	ライフコーディネート（ライフコーディネート）	2	家政科	3
教材・副教材	はじめてのカラーハンドブック カラー＆ライフ（日本色研事業）			
科目の目標	快適な生活空間を生み出す「色」に関する基礎的・基本的な知識を習得させ、衣食住の様々な面から色彩効果を生かしたコーディネート方法を学習し、生活をより豊かに営むことのできる能力と態度を育てる。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>生活と色彩との関わりについて演習や作品制作等を通して、ライフコーディネートのあり方について考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○色の効用とカラーコーディネート、色がもたらす心理的効果、色の性質 ○ファッションにおける色の使い方、ファッションコーディネート ○料理や食卓を彩る色、テーブルコーディネート ○室内空間における色の使い方、リビングコーディネート ○フラワーアレンジメント、フラワーアレンジメントの基本と作成 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専門的で高度な技術力：より豊かな生活を営むため、生活を彩る色彩について専門的な知識と技能を身に付ける。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	「色」に関する基本的な知識を理解するとともに、「色」を考えた製作ができる。	日常生活から課題を発見し、より豊かな生活を実現させるために課題を創造的に解決する力を身に付けている。	生活の充実向上を目指すために主体的に課題解決に取り組んだり、振り返って改善したりするとともに、実習では他者と協同的に取り組む態度を身に付けている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実習内容 ○作品完成度 ○調べ学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○ワークシート ○課題発表 ○作品制作中の思考・判断 	<ul style="list-style-type: none"> ○出席状況 ○授業中の態度・発言 ○提出物 ○目的に取り組む積極態度 	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
情報	コンテンツの制作と発信（コンテンツの制作と発信）	2	家政科	3
教材・副教材				
科目の目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を行うことなどを通して、コンテンツの制作と発信に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンテンツの制作と発信について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ○情報社会におけるコンテンツの制作と発信に関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ○情報社会で必要とされるコンテンツの創造を目指して自ら学び、コンテンツの制作と発信に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 <p>※情報に関する科学的な見方・考え方 情報に関する科学的な見方・考え方について、「事象を、情報とその結び付きとして捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用（プログラミング、モデル化とシミュレーションを行ったり情報デザインを適用したりすること等）により、新たな情報に再構成すること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツが情報社会のなかで果たす役割や及ぼす影響について学ぶ。 ・静止画のコンテンツに関する課題を発見、解決する方法について学ぶ。 ・動画のコンテンツに関する課題を発見、解決する方法について学ぶ。 ・音・音声のコンテンツに関する課題を発見、解決する方法について学ぶ。 ・コンテンツの発信に関する課題を発見し、コンテンツの発信に関する知識と技術を活用し課題を解決する方法を学ぶ <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で生きる教養力：情報に関する用語など基礎知識を学び、日々変化する情報化社会を生き抜くために必要になる情報リテラシーを育成する。 ○情報を活用する力：様々なデータを活用し分析する活動を通して、問題の明確化、情報の収集・整理・分析する技術を育成する。 ○論理的・批判的に思考する力：ある事柄について、1つの情報源だけでなく複数の情報と照らし合わせることで物事を多面的に判断できる力を育成する 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 高い志で挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	情報と情報技術についての知識と技能、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けている。情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付けている。	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだしている。問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用している。	情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとしたり、情報セキュリティを確保しようとしていたりして、情報社会に主体的に参画しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業での活動 ○提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○実技試験 ○実習 ○授業での活動 ○提出物 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習 ○授業での活動 ○提出物 	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第2回	○情報社会とコンテンツ	○情報社会の中でコンテンツが果たす役割を理解し、様々な情報の表現形式を扱うための基本的な知識や技術を身に付けるとともに、情報産業に携わる者として、コンテンツが情報社会の中で果たす役割や及ぼす影響について考えコンテンツの制作と発信に取り組む意識と意欲を高めることができるような態度を育む。
	第3回	○静止画のコンテンツ ○動画のコンテンツ ○音・音声のコンテンツ	○静止画のコンテンツの表現や編集に関する知識と技術を身に付け、静止画のコンテンツに関する課題を発見、解決する力を養うとともに、静止画のコンテンツの制作に取り組む意識と意欲を高めることができる力を養う。 ○動画のコンテンツの表現や編集に関する知識と技術を身に付け、動画のコンテンツに関する課題を発見、解決する力を養う。 ○音・音声のコンテンツの表現や編集に関する知識と技術を身に付け、音・音声のコンテンツに関する課題を発見、解決する力を養う。
後期	第4回	○コンテンツの発信	○コンテンツの発信に関する知識と技術を身に付け、コンテンツの発信に関する課題を発見、解決する力を養う。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
福祉（専）	コミュニケーション技術（コミュニケーション技術）	2	家政科	3
教材・副教材	コミュニケーション技術（実教出版）			
科目の目標	<p>福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会福祉の向上に必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>○対人援助について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>○対人援助の展望に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>○健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、社会福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p> <p>※福祉の見方・考え方 生活に関する事象を、当事者の考えや状況、環境の継続性に着目して捉え、人間としての尊厳の保持と自立を目指して、適切かつ効果的な社会福祉を関連付けること。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <p>○介護におけるコミュニケーションでは、コミュニケーションの意義と役割やコミュニケーションの基本技術を身に付ける。</p> <p>○サービス利用者に応じたコミュニケーションでは、障害の理解と障害のある人とのコミュニケーションの方法を身に付ける。</p> <p>○「コミュニケーションの技法」では、点字や手話を取り上げ、その最も基本的な部分について学習しコミュニケーションの大切さを理解する。</p> <p>■ <u>未来を拓く8つの力の育成場面</u></p> <p>○専門的で高度な技術力：福祉におけるコミュニケーションについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。</p> <p>○対話し協働する力：適切な対人援助に主体的かつ協働的に取り組む。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力 専門的で高度な技術力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	対人援助について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	対人援助の展開に関する課題を発見し、手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な対人関係に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○授業態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○授業態度の観察 ○課題の点検	○定期考査 ○授業態度の観察 ○課題の点検	
年間指導計画				

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	学科	年次
音楽	音楽理論（音楽理論）		2	家政科	3
教材・副教材	高校生の音楽1（教育芸術社），MOUSA2（教育芸術社）				
科目の目標	<p>音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽に関する基礎的な理論について理解し、楽譜に表す技能を身につけることができる。 ○音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力を身につけることができる。 ○音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとする態度を養う。 <p>※音楽的な見方・考え方 感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。</p>				
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な知識を理解し、我が国や諸外国の様々な音楽に見られる楽曲の様式を理解することができる。 ○音楽の形づくっている要素を正しく読みとって、歌唱や器楽することができる。 ○音楽の専門的な学習である楽典、楽曲の形式などと和声法や対位法の知識を身につけることができる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで、幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。 ○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て、個別の感じ方や考え方に応じながら創作する。 ○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え、言語化して相手に伝えることで、捉え方や考え方を深化させる。 				
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力		
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	
	B おおむね満足できる	音楽に関する基礎的な理論について理解し、理解したことを楽譜によって表そうとしている。	音楽理論と音楽表現を高め、音楽作品に対する解釈や価値判断を深めることとの関わりについて思考・判断し、表現しようとしている。	音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとしている。	
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○振り返りシート ○小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○鑑賞課題 ○振り返りシート 		

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
美術	クラフトデザイン	2	家政科	3
教材・副教材	美術 2(光村図書)			
科目の目標	<p>クラフトデザインに関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○美的な造形性や機能性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。 ○表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 ○クラフトデザインの可能性を追求する態度を養う。 <p>※造形的な見方・考え方 美術に関する専門的な学習を通して、感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。</p>			
講座内容	<p>※この授業は、通期、選択授業です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発想や構想に関する資質・能力を培い、イメージやアイデアを広げ、創造的に表現することができる。 ○素材を基に発想し、目的や条件、美しさを追求して作品を計画的に制作することができる。 ○作品を見るだけに終始するのではなく、実際に使うことを通して、作者の思いや表現の工夫などを感じ取り、見方や感じ方を深め、そのよさや美しさを味わうことができる。 <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを表現する力：イメージやアイデアを広げ、創造的に表現することができる。 			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	美的な造形性や機能性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けようとしている。	表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を身に付けようとしている。	クラフトデザインの可能性を追求する態度を養おうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○作品 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○作品 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○鑑賞活動 	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
英語	スキルアップイングリッシュ（スキルアップイングリッシュ）	2	家政科	3
教材・副教材	All Aboard! English Communication I (東京書籍) All Aboard! English Communication II (東京書籍)			
科目の目標	日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理して適切な英語で表現したり、要点や意図、論理の展開などを明確にしなが、情報や自分自身の考えなどを話したりすることができる。			
講座内容	<p>※この授業は、通期、一斉授業です。</p> <p>1 チャットング 身近な話題について英語で話すことに慣れることができるよう、様々な話題を取り上げる。これまで学習した語彙、文法や表現を使うことができるようにする。</p> <p>2 ミニディベート 与えられた話題について、ミニディベートを行うことで、客観的・批判的・多角的な視点を身につける。また、自分の考えを道筋立てて主張できるように練習をする。</p> <p>3 プレゼンテーション 与えられた話題について、自分の意見や調べた情報を付け加えながらプレゼンテーションを行うことで、自分の意見や考えを発信することができるようにする。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○社会で生きる教養力：様々な分野のリーディングやリスニングを通して、内容や背景に関する知識や教養を身につけ、世界の諸課題を知る。</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：身につけた教養や知識をもとに、情報や他者の意見を論理的に解釈・分析し、自分の意見を整理する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：ディベートやディスカッション、自由英作文などで、テーマに対して賛成・反対意見など自分の考えを英語で表現する。</p> <p>○志高く挑戦する力：身につけた教養や知識をもとに、英語資格検定などで、より上位の級の合格を目指す。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力との関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	各トピックの内容で使われる表現の意味やはたらきを理解している。 また、それぞれの表現について、その役割に応じて活用する技能を身につけている。	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語での確に理解したり適切に伝え合ったりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○定期考査 ○小テスト ○パフォーマンステスト	○定期考査 ○パフォーマンステスト	○提出物 ○小テスト ○授業態度の観察	

年間指導計画

期	考查範囲	学習内容	学習のねらい
前期	第1回 第2回 第3回	チャットिंग 2年次に履修した教科書で取り上げられたテーマについて、論点を整理しながら課題の解決に向けて効果的な理由や根拠をあげて英語による議論をする ミニディベート 2年次に履修した教科書で取り上げられたトピックについてペアでミニディベートを行い、ディベートで用いられる表現に慣れる	<ul style="list-style-type: none"> ○英語を理解し、英語で表現する態度や能力を養う。 ○英語の質問に対して反射的に答える習慣を身につけると同時に、的確かつ簡潔に答える能力を高め、さらにスピーキングテスト等でも落ち着いて話せるようになることを目指す。 ○授業中は英語力にかかわらず、ペア(グループ)ワークに英語を用いて意欲的かつ積極的にとらうとする姿勢が求められる。
後期	第4回	プレゼンテーション 2年次に履修した教科書で取り上げられたトピックについて、資料や写真等を使用し、まとめたことについてプレゼンテーションを行う。 聞き手は、その内容に関して質問・評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ○分からない単語やフレーズについてはChromebookで調べ、次回必ず答えられるように徹底的に復習する。

* 年間指導計画は予定であり、変更がある場合には、連絡します。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	学科	年次
書道	実用書道（実用書道）	2	家政科	3
教材・副教材	書Ⅱ（教育図書）			
科目の目標	書の表現の方法や形式，多様性などについて幅広く理解すると共に，書写能力の向上を図り，書の伝統に基づき，効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。			
講座内容	<p>※この授業は，通期，選択授業です。</p> <p>○硬筆や毛筆を用いて実用的な書の技術を学び，創造的な書の表現へと発展させることを目指します。</p> <p>○小楷や仮名，小筆を用いた実用的な書の学習では繊細な筆使いと文字構成について学び，実際の場面で役立つ表現力を養います。また，硬筆書写の学習を通して，行書や楷書，平仮名，片仮名の基本形を理解し，文字の基礎的なバランスやその美を習得し，実用的な書のスキルを高めます。</p> <p>○創作活動を通じて書の表現を広げ，はがきや年賀状のデザイン，色紙作品の制作を行い，自由な発想と個性を反映した作品作りに取り組みます。また，完成した作品を相互に鑑賞し，書の表現に対する理解を深めます。</p> <p>■未来を拓く8つの力の育成場面</p> <p>○論理的・批判的に思考する力：古典から現代まで，幅広い角度から見て表現しようと試行錯誤する。</p> <p>○自分の考えを表現する力：表現及び鑑賞の活動を経て，個別の感じ方や考え方等に応じながら創作する。</p> <p>○対話し協働する力：どのように表現しようとするのかを考え，言語化して相手に伝えることで，捉え方や考え方を深化させる。</p>			
評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
未来を拓く8つの力の関連	社会で生きる教養力	情報を活用する力 論理的・批判的に思考する力 自分の考えを表現する力	対話し協働する力 志高く挑戦する力 自律しやり抜く力	
評価の基本的な考え方	A 十分満足できる	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況	Bを大きく上回っている状況
	B おおむね満足できる	書の表現の方法や形式，多様性などについて幅広く理解すると共に，書写能力の向上を図り，書の伝統に基づき，効果的に表現するための基礎的な技能を身につけようとしている。	書に関する見方・考え方を働かせ，生活の中の諸文化の意味や価値を考え，書の美を味わい深く捉えようとしている。	主体的に書の諸活動に取り組もうとしている。
	C 努力を要する	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況	Bを大きく下回っている状況
評価方法	○授業態度の観察 ○作品の評価	○授業態度の観察 ○作品の評価 ○鑑賞課題の点検	○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○鑑賞課題の点検	

